

## 平成30年 6月の思いやり通信



エコライフ — 自然の風を活かす

### 住む場所・季節・時間帯で風の通り方を調べる

・窓が一つの部屋に複数ある場合、風は窓から入り別の窓へと抜けていきます。部屋の窓の数が少なく、その部屋だけでは風通しが確保できない場合は、複数の部屋を渡って風が抜けるルートを探りながら窓の配置を検討します。これが風通しの良い部屋を作るうえでの基本的な考え方です。

・風通しの良い家を造るには、東西南北どちらから風が吹いてきても風が通るように設計することが大切です。

#### 住む地域によく吹く風を知っておく

- ・卓越風：特定の地域で特定の期間によく吹く風。
- ・局地風（地域風）：名前が付けられるほど特徴的な風。生活に大きく影響することが多い。
- ・全方位について通風を検討したうえで、局地風対策を考慮した間取りにすることがその土地に吹く風を活かした設計手法になります。
- ・頂側窓（ハイサイドライト）：家の上部にあり、風のない日でも家の中で空気の動きを作り出します。上の上部にたまった夏の熱気が頂側窓から外に逃げていくのと同時に、低い位置の窓から外気を取り込むことができます。
- ・頂側窓（ハイサイドライト）を設置することで、他の窓との高さの差を作ることができるために重力換気を起こし、部屋の上部にたまった熱気を効率よく排出することができます。

#### 小窓を配置して風の流れを作る

・窓から窓へ流れる風の線をつなぐイメージを持てば、狭い場所にも風の流れを作ることができます。

#### 風通しを良くする工夫

- ・風は何かにつぶかるまではとにかく真っすぐ進むため、窓の目の前を通り過ぎる風は何かにつぶなければ室内には入ってこないのです。
- ・斜めに開くタイプの窓を付けることで、家と並行に走って素通りしてしまう風も室内に誘導することが可能になります。
- ・立体通風とは家の中を縦に風が通るようにすることで、吹き抜けを作ったり、高い位置に窓を付けたりして風を誘導します。縦に風を通すことで、家の隅の方にも風が行きわたりやすくなります。（高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋）

“たろうの店きごころ”

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781